

ブログを用いた論理的作文支援方法の提案
2つの支援手続きと2つの評価指標の検討

作文目的の言語化と構成スキル教授手続きの効果，および文字数と文接続に関する評価指標の検討

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
辻本 礼

本研究では，6名の参加者にブログを用いた作文課題を設定し，2つの支援手続きと2つの評価指標の検討を行った。支援手続きとしては，1つに，作文の読み手と目的を言語化し明確化する手続きと，もう1つに，文章構成のスキルを教授するクイズシートを行う手続きの2つを実施した。評価指標としては，一文あたりの文字数と，全文章数における接続詞または指示代名詞の使用割合の2つを用いた。

支援手続きはチェインジング・コンディション・デザインを用いて段階的に実施し，参加者ごとに効果の検討を行った。また，問題のアセスメントと支援効果の般化の検討のため，3度の小論文課題を実施した。

これらを検討する目的は，以下の4点であった。まず1点目は，参加者に論理的な作文の機会を設定し，問題の有無と所在を明らかにすることであった。次に2点目として，具体的な支援手続きを提案し効果を検討すること，3点目は，明確な評価指標を設定してその妥当性および信頼性を検討することにあった。加えて4点目として，近年注目されているコンピュータ・ネットワークを活用した作文支援の方法と可能性を模索することも本研究の課題であった。

実験の結果，読み手と目的を明確化する手続きを実施した参加者の作文において，一文あたりの文字数が減少した。文章構成のスキルを教授するシートを実施した参加者の作文においては大きな変化はなく明確な効果は示されなかった。加えて上記2つの支援手続き併用時には，接続詞または指示代名詞の使用割合が増加する傾向がみられた。また，参加者の作文を評価した2つの指標は，各々第3者の評価と照合し，社会的な妥当性が得られたほか，データの信頼性も確保された。

これらの結果から，読み手と目的を明確化する手続きには，一文あたりの文字数を減少させ，参加者の文章を読みやすいものに変化させる効果があると考えられた。更に，当該手続きには，参加者の作文の機能を「自らの思考の整理」から「他者（読み手）への伝達」へと変化させることが示唆された。また，構成スキルのインストラクションは，読み手と目的の明確化と併用されることで初めて効果を発揮し，文章の接続関係が明らかな読みやすい作文を可能にすることが示された。考察では，上記に加えブログを用いた作文支援の可能性を検討し，今後の課題を述べた。